ファインスチール　第61巻　1号　通巻582号　1、4、7、10月25日発行　平成29年1月25日発行　ISSN1348−494X

ファインスチール

Fine Steel

Winter 2017
冬

CONTENTS

01 特集1 全国ファインスチール流通協議会
エコプロ2016 出展報告

03 特集2 小中学生向けこどもツアー
エコプロエコキッズ探検隊

05 特集3 ファインスチールWEBマガジンの
機能改善および新たなページ開設について

07 ファインスチールを使った 建築設計例 320
南雪谷の家
ずらしてできた機能的で独特なテラス ———
設計：河野 有悟／河野有悟建築計画室

11 建築めぐり
ウォートルス伝 7　丸山雅子

13 街でみかけるファインスチールの施工例　その29

一般社団法人 日本鉄鋼連盟

全国ファインスチール流通協議会 エコプロ2016出展報告

(C)エコプロ2016

会期：2016年12月8日（木）～10日（土）
会場：東京ビッグサイト
主催：（一社）産業環境管理協会、日本経済新聞社

エコプロ2016とは、消費財や生産財、エネルギー、金融、各種サービスまであらゆる分野のエコプロダクツやサービス、CSR活動の紹介など企業、地方自治体、NPO・NGO、教育機関が一堂に集まる、日本最大級の環境展示会であります。

●前年度同様に2ブースでの出展

全国ファインスチール流通協議会は、日本鉄鋼連盟 建材薄板技術・普及委員会と会員メーカー4社の協賛のもと2015年度に引続き、ファインスチール普及活動の一環として、エコプロ2016に出展。前年度同様に2ブースでの展示となりました。また今回も、来場者にわかりやすく理解してもらうためにMCを採用し、環境にやさしい素材「ファインスチール」の「きれい」「つよい」「リサイクル」の認知度アップを目的とした企画展示を行い、「エコプロエコキッズ探検隊（P3～特集2参照）」にも参加。ファインスチールという素材に関心を持っていただけるツアープログラムを企画いたしました。

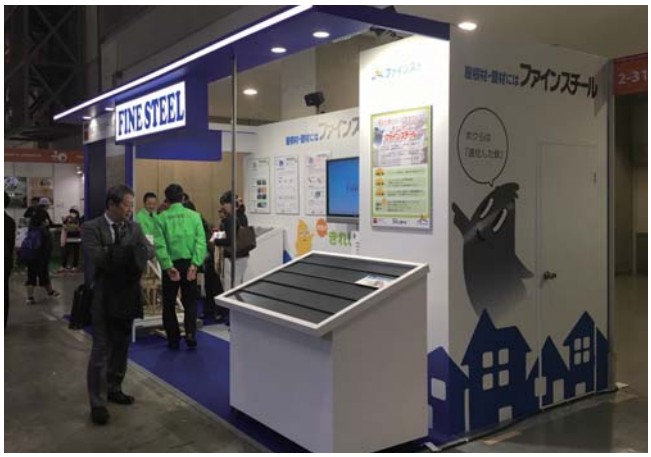
ブース全景

主婦の方からも屋根の機能について熱心に質問を受ける

「ファインスチール取扱店検索手順」パネルを新たに作成

「ファインスチールってなに?」パネルとポケットティシュー配布で来場者へPR

一般向け説明会に来場者も真剣に参加



屋根のモックアップを立ち止まって熱心に見る

●来場者の真剣さが伝わった

前年度との大きな違いは、地震に対する不安感からのファインスチール屋根の機能に対する質問、実際に購入するにはどうしたらよいかの問い合わせが非常に増えました。また、質問も細かい部分にまでおよび、数十分もブースに滞在される方がいらっしゃるなど、来場者の真剣さがひしひしと伝わってきました。

ハンドタオル&ポケットティシューを来場者にプレゼント

開催結果

●エコプロ2016 来場者数

12月 8日(木) 晴れ	57,290人	合計 167,093人
12月 9日(金) 晴れ	63,390人	
12月10日(土) 晴れ	46,413人	

●当協議会ブース 来場者数(直接、質疑応答した人数)

3日間トータル　約500人強

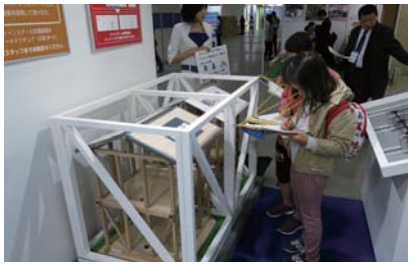
小中学生向けこどもツアー
エコプロエコキッズ探検隊

(C)エコプロ2016

主　　催：一般財団法人 グリーンクロスジャパン
運営事務局：有限会社リボーン（エコツーリズム・ネットワーク）
特別協力：エコプロ2016

磁石が付くのに興味津々

地震の部分はみんな集中


真剣にメモを取る小学生

●今年も「エコプロエコキッズ探検隊」に参加

「エコプロエコキッズ探検隊」とは、小中学生を対象とし、エコプロ2016出展企業や団体のブースを巡って探検するこどもツアーです。全国ファインスチール流通協議会ブースには、3日間を通じて21の小中学校や団体の総勢264名の方々にご来場いただきました。全員メモを取りながら真剣に説明を聞き、おさらいクイズでは全員正解の好成績でした。

アンケート結果および感想

●エコツアー参加者アンケート結果

すごく勉強になった	148人（79.1%）	合計 187人
ふつう	37人（19.8%）	
あまり良くわからなかった	2人（1.1%）	

ツアー参加者への勉強ツール

●「すごい」と思ったことなど、参加者の感想（一部抜粋）

- 私の家のカベもファインスチールだから、そういった名前だと知って新鮮に思った。また、軽い屋根の方が災害に強いと知って、最初は重い方が強そうだと思ったけど、軽い方が柱も少なくすんで良いこともたくさんあると思った。
- こんな家がなんけんたったらかんきょうにやさしい、じしんにじょうぶな家がたてられてすごくいいなと思いました。
- 最近は地震が多いので、屋根が軽いことで被害が少しでも小さくなるのではないかと思いました。

その他の展示会 出展報告

エコライフステージ2016

会期：2016年10月8日（土）～9日（日）
会場：北九州市役所周辺広場（福岡県北九州市）
主催：北九州エコライフステージ実行委員会

初日はあいにくの雨でしたが、2日間にわたり、お子様をはじめたくさんの方にご来場いただきファインスチールの魅力をお伝えすることができました。ノベルティーとして「屋根の重さの違いを体感できる実験セット“紙ぶるる”」と「ファインスチール読本」を 500セット準備しましたが、終了時間前にすべて配布し終わるという盛況ぶりでした。

あいち住まいるフェア2016

会期：2016年10月14日（金）～16日（日）
会場：名古屋市中小企業振興会館（愛知県名古屋市）
主催：愛知ゆとりある住まい推進協議会、中日新聞社、中部経済新聞社

建築総合展2016と同時開催であったため、予想以上に工務店、設計士などの業界関係者にご来場いただきました。屋根・壁のモックアップや耐震模型にも非常に関心を寄せていただき、屋根壁の耐久性に関する質問も多くありました。また、「空き缶釣り」のイベントも盛り上がり、700セット準備した「ファインスチール読本」もすべて配布し終わるなど、大盛況のうちに終了しました。

特集 3

ファインスチールWEBマガジン の 機能改善 および 新たなページ開設 について

『ファインスチールWEBマガジン』が登場してから4年が経ち、あらためてその機能について検証しました。ここでは、機能改善を行った『クイック検索』についてと、従来からある「ファインスチールを使った建築設計例」をピックアップし開設した『建築設計例 PICK UPマガジン』について解説いたします。まだご覧になっていない方も、この機会にぜひ『ファインスチールWEBマガジン』をご体験ください。

■『クイック検索』にわかりやすいサムネイル画像を追加

「特集」「ファインスチールを使った建築設計例」「街でみかけるファインスチールの施工例」に素早くアクセスできる『クイック検索』が機能アップしました。これまでは文字表示のみでしたが、サムネイル画像を追加。どんなページかな？どんな建物かな？が、わかりやすく検索できます。

『クイック検索』のサムネイル画像について

①このボタンをクリックすると「クイック検索」のトップページ（下図）が開きます。

②従来の検索結果ページ（下図）は、文字のみでわかりづらかったが、サムネイル画像を追加してわかりやすく改善しました（右図）。

●特集

●ファインスチールを使った建築設計例

●街でみかけるファインスチールの施工例

■『建築設計例 PICK UPマガジン』ページを新たに開設

ご愛読いただいている「ファインスチールを使った建築設計例」のコンテンツをピックアップし、ページを開設しました。建物の外観の全方向をCGイラストで作成した「360°パノラマVR」や、誌面に掲載しきれなかった建物の「内観写真」も多数掲載しています。誌面では表現できないコンテンツをお楽しみください。

『建築設計例 PICK UPマガジン』ページへのアクセス方法

①「ファインスチール」サイトのトップページを開きます。

②ページ中ほどにある『建築設計例 PICK UPマガジン』のバナーボタンをクリックすると、下のトップページが開きます。

上記の他、いちばん左の「WEBマガジン」バナーボタンをクリックして「ファインスチールWEBマガジン」のトップページからもアクセス可能です（同じイメージのバナーボタンがページの右側にあります：P5参照）。

『建築設計例 PICK UPマガジン』のページ構成について

●各部屋の内観写真

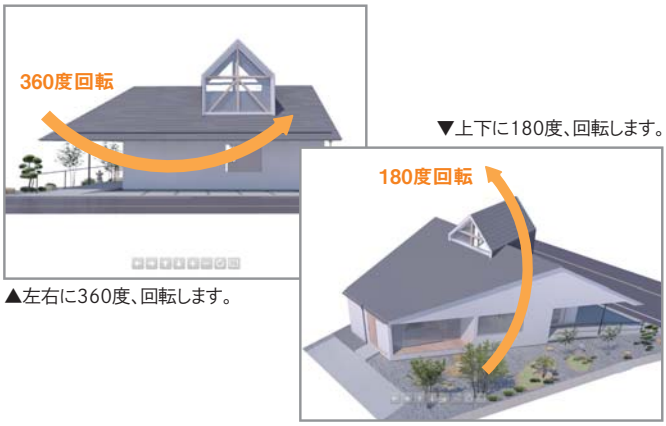
内観写真も多数掲載。ページの都合上、誌面では掲載できなかった写真も、PICK UPマガジンで閲覧してください 。

●WEBマガジンページへリンク

メイン画像をクリックすると、WEBマガジンのページが開きます。写真やVRだけでなくレポートもお楽しみください。

●360°パノラマVR

全方向の外観をCGイラストで作成しVR化。ヨコ方向360度・タテ方向180度、どの方向からも建物を確認でき、自在に回転可能。



▲左右に360度、回転します。

▼上下に180度、回転します。

■ファインスチールホームページのバナーボタンも一新

ファインスチールホームページのトップページに掲載の各バナーボタンも一新しました。
ぜひ、下記URLからアクセスしてください。

http://www.finesteel.jp/

▲WEBマガジントップページへ

▲アンケート記入ページへ

▲PICKUPマガジントップページへ

ファインスチールを使った
建築設計例 320

南雪谷の家

ずらしてできた機能的で独特なテラス———

設計：河野 有悟／河野有悟建築計画室

（写真はすべて、大沢 誠一氏 撮影©）

都心の2世帯住宅

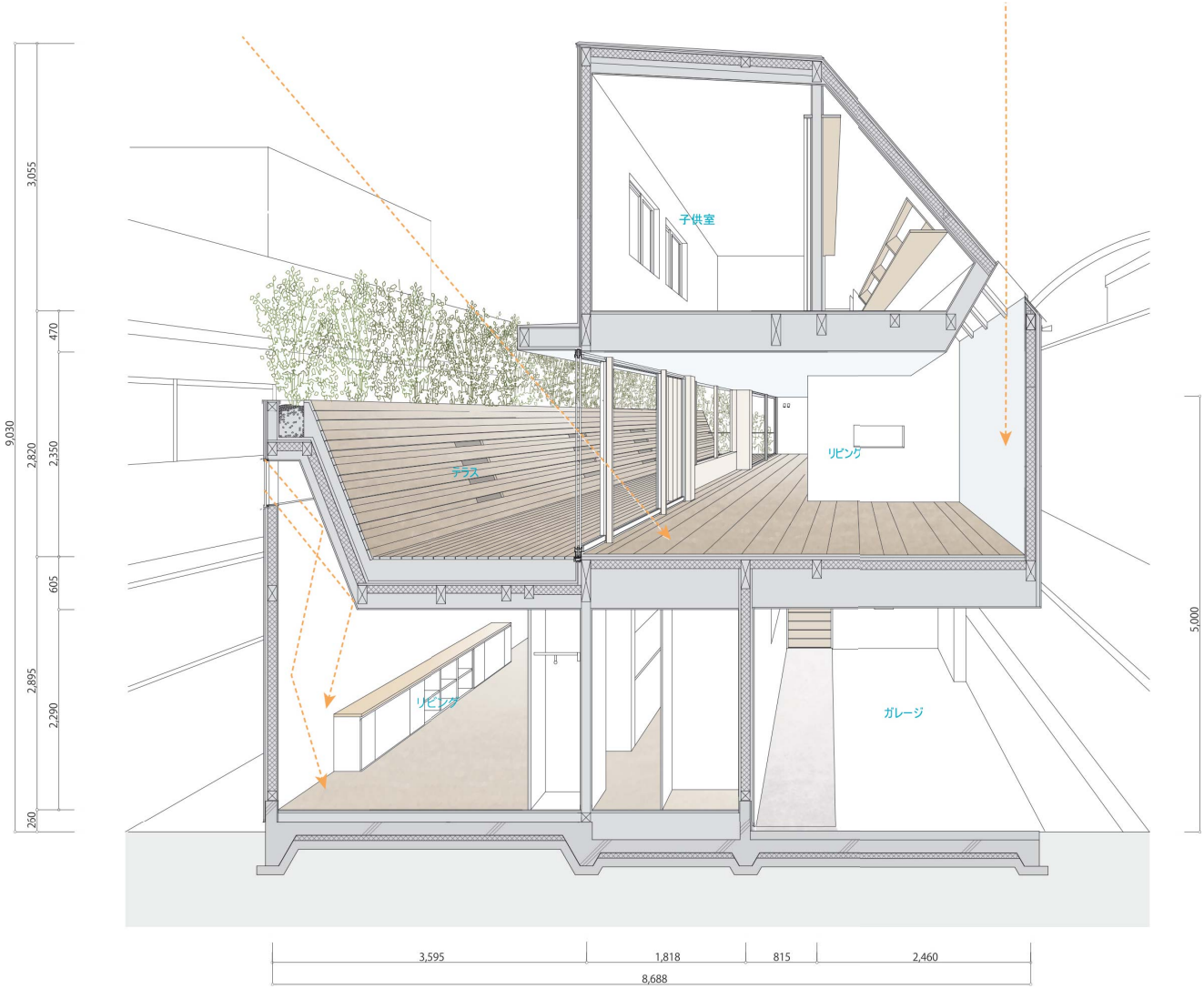
東京都大田区にある「南雪谷の家」は、70代の母世帯と、40代夫婦と5歳のお子さんの子世帯の住む、塗装ガルバリウム鋼板が用いられた2世帯住宅である。知人からの紹介によって河野氏が設計を行なうこととなった。施主の要望から、お互いのプライバシーを保ちつつ時には2世帯で集まれるような空間をつくることや十分な採光を確保することが重視された。また、施主との打ち合わせの間で、緑ある空間を施主が希望しているということも感じられた。

敷地条件とスタディ

敷地は都内の住宅が密集した場所にあり、前面道路も狭く様々な斜線制限により建築の形態が規制される敷地である。また、南側に3階建ての集合住宅の共用廊下があるために、最も光を取りたい面から隣人の目が届くという状況であるため、住戸内のプライバシーをどのように守るのかも問題となる。各条件の中で採光を獲得しながら、諸室の広さとレイアウト要望をいかに叶えるのかも重要なポイントとなった。

こうした諸案からスタディは、どのように空地を残すかということからはじまって、映像ディレクターである施主のアトリエや、和室が欲しいなどの要望を取り入れつつ、敷地にどのように各用途を配置するかを考えながら、初期段階から光、空地や外部空間も同時にスタディしていったという。敷地に対しての各機能の並び方、リビングを何階にするのかなど、施主とコミュニケーションを繰り返しながら暮らし方などと照らし合わせて解答に至った。結果として子世帯のプライベートスペースは3階に、母世帯の住戸は1階に集約し、そして広く

東側の道路より見る。



2階リビングよりテラスを見る。

開放的なリビングは２階に配置され、お互いのプライバシーを保護しながらも時には家族が集まれるような場所をもつ建築となった。

プライバシーの保護と採光の両立

スタディの結果ヴォリュームをずらして2階にテラスを生み出し、１階にガレージを作った。また、そのテラスに植栽を配置することによって、主たる生活空間にも木漏れ日を取り込むことができた。1 階ではヴォリュームが隣地に接近し、採光が不利な部分に対して、屋根を一部立ち上げて、天井高を上げることによって光を導いている。また、立ち上げた屋根の上に植栽を配置することによって隣地の集合住宅の共用廊下からの視線をカットすることにも成功した。このようにして出来た２階のテラスの傾斜部は屋根のような、床の延長のような、目隠しの壁のような存在となり、結果としてこの敷地ならではの形態となった。

将来的な使われ方の想定

この住宅は、将来的な使われ方の変化を見越して設計されている。1 階は将来的に賃貸住宅としての利用を考え間取りの変更が可能になっている。一部の壁を、後から窓を作っても構造上問題ないように計画をし、それを開口にして現在の開口を閉じるなどで賃貸として改築しやすいように配慮されている。

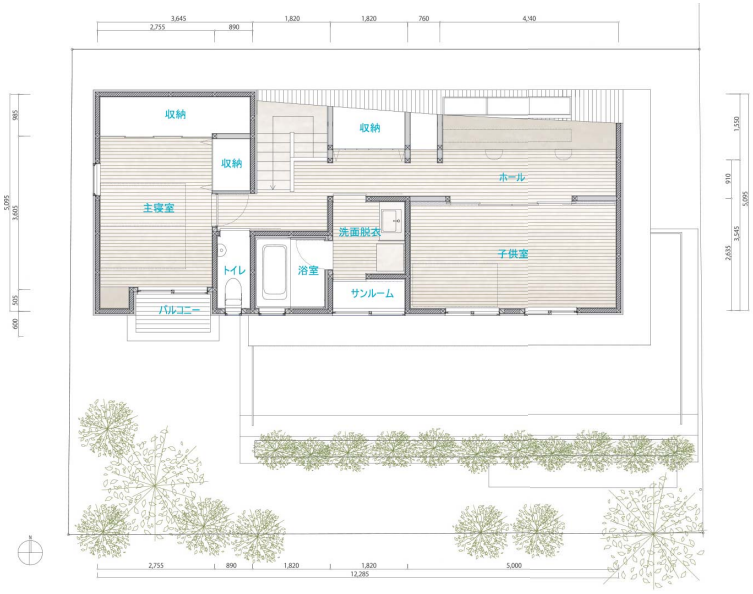
３階の子供部屋は比較的広めに設計されているが、これは将来2人目が生まれることを想定し、後に２部屋に出来るようにしている。子供部屋の北側は斜線制限などで居室としては高さが制限され、活用しにくい場所であるが、天井の低くなる部分では北側の安定した採光を取り入れる天窓を設けて、勉強机を配したホールとして活かされた。

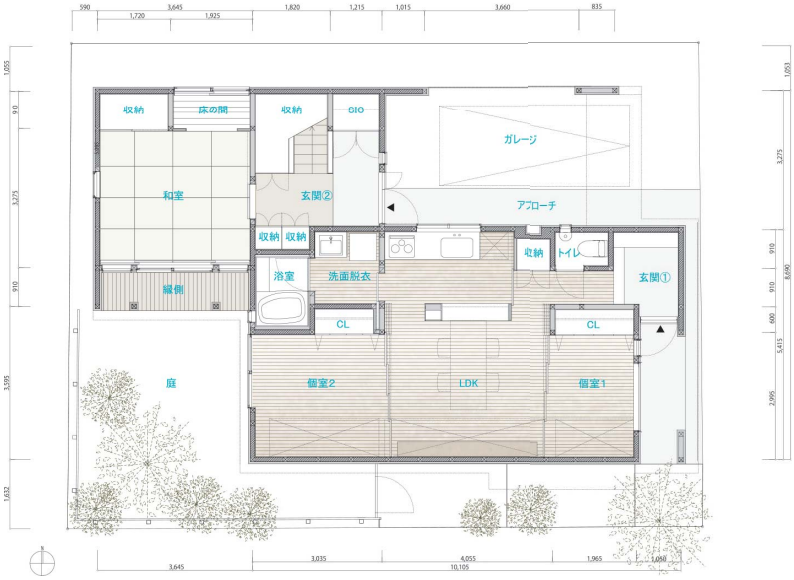
材料、ディティールへの配慮

コストに対して耐久性が高いこともあり、塗装ガルバリウム鋼板が多く用いられた。1 階、3 階のプライベートな機能のヴォリュームに対しては瓦の色をイメージした銀黒（ギングロ）の塗装ガルバリウム鋼板を用い、２階との機能の違いを材料で表現している。

また、ヴォリュームの率直な印象を忠実に残すために、壁面からサッシが出っ張らないように面内に設置したこと、サッシの方立ての内側部分に木製の化粧方立を別に立てることで、アルミサッシを使っても柔らかい印象の空間に仕上げていること、和室の壁紙に「鳥の子紙」という手すきの繊維の細かい和紙を用いていることなど、ディティールの部分にも多くの配慮がされている。

1階LDKより庭を見る。





余白をデザインする

この住宅は、密集した住宅地にあって、視線のカットによるプライバシーの保護が重要な現代の住まいのあり方に対する一つの回答を示している。この立地ならではのプライバシーの確保、採光確保の方法が結果的に独特なデザインとして現れているように、単に意匠性のみの追及でなく、働き、役割を持ったものがヴォリューム、空間として現れる機能美も同時に追及されている。

建物が建っていないところである羽目板を配した外部空間に差異を与えることで生活空間に変化を与え、人々の暮らし方にも影響を与える。余白をどのように共有するのか、または分けていくのか。建物の無い場所でもそれが生活においてどのような価値をもつのかという所まで、十分な配慮をもって設計したいと河野氏は言う。

設計：河野有悟建築計画室／河野 有悟
河野有悟建築計画室／〒110-0015 東京都台東区東上野6-1-3 東京松屋UNITY1102号室
［tel］03-5948-7320　［fax］03-5948-7321　［e-mail］contact@hugo-arc.com　［URL］http://hugo-arc.com/
レポーター：東京大学 大月研究室　石川 尭子（M2）　武田 秀星（M1）

建築めぐり

ウォートルス伝 7

銀座煉瓦街の建設

藤森研究室

担当 丸山 雅子（もとこ）

東京・中央区銀座の町並みは、実際に歩いたことがなくても、TVや雑誌などでお馴染みであろう。その銀座の基礎を築いたのが、本連載の主人公トーマス・J・ウォートルスである。

1872年4月3日、銀座と京橋の一帯を大火が襲った。明治政府はこの地域の重要性を考え、即座に復興計画に着手した。焼け跡のそばでは鉄道の敷設工事が行われており、半年後に横浜から新橋まで鉄道が開通すれば、ここは新首都東京の玄関となる場所であった。

図1 銀座煉瓦街（1874年）
大通り（現・中央通り）が完成したばかりの様子を示す。明治の日本人は、この町並みにロンドンやパリを連想したが、現代の私たちには難しい。出典：文献3

復興計画は、道路の拡幅と建物の不燃化の二本の柱からなり、実現は御雇い外国人のウォートルスに託された。道路は三種に分類され、大通り（現・中央通り）は歩道も含めて幅15間（約27m）、横道は8間、裏道は6間と決められた。建物は一等から四等まで四種用意された。大通りに面して建つのはもちろん一等で、ジョージアン様式の煉瓦造二階建て長屋が建ち並び、前面に歩廊がついていた。工事はウォートルスが日本を離れている間も、ウォートルスの定めたルールの下で続けられ、1874年7月には京橋から新橋までの、約1kmの大通りが完成した（図1、2）。同12月には大通りにガス灯が灯った。そして着工から5年経った1877年5月、当初の計画を縮小して事業は終結した。

こうして完成した銀座煉瓦街ではあったが、竣工直後は不人気で空き家が多かった。洋風煉瓦造の建物は、従来の日本家屋と勝手が違うし、湿度の高い日本で快適とはいえなかった。そのうえ払下げ価格も賃貸料も高額であった。人々は建物を勝手に改造したり、裏手に蔵造りや塗屋造りを新築したりした。それでも銀座煉瓦街は文明開化のシンボルとして世間の注目を集め続け、江戸一の商業地だった日本橋を追い抜き、東京一の繁華街に成長するのに長い年月は必要としなかった。当初の建物は関東大震災で全て失われたが、道路の幅はウォートルスの計画のまま現在も使われている。

図2 恵比寿屋呉服店（後に日報社）
『The Far East』紙で、銀座の大通りで最もハンサムな建物と紹介された。現在の銀座5丁目の交差点の西北隅に位置する。建物はシンプルな箱形で、正面中央部が張り出し、円柱で支えられた三角破風を載せる。縦長の窓が左右対称に整然と並ぶ姿は、ジョージアン様式の特徴をよく示している。出典：『The Far East』1874年7月

以上が銀座煉瓦街の概要である。本稿では銀座煉瓦街のモデルについて考えてみたい。

古くは、1874年6月に刊行された和本に銀座煉瓦街の記述がある（文献1）。そこには「石室ハ即チ英京ノ倫動ヲ模シ街道ハ即チ仏京ノ巴黎ニ擬ス」とある。当時はレンガのことを「煉瓦石」と呼んでおり、「石室」は「煉瓦建築」のことである。つまり、建物はロンドン、道路はパリがモデルだというのである。同様の記述はその後の他の文献でも見ることができるが、本当にそうであろうか。パリは1850、60年代に大改造され、広い並木道“ブールヴァール”が整備されたが、それより前に英国でも、バースやロンドンでピクチャレスクな街路計画が行われている。そして銀座煉瓦街に最も熱心だった大蔵省の井上馨もウォートルスも、英国には詳しかったが、パリは見ていない。井上馨は1863年11月から翌4月まで、ユニバーシティ・カレッジ・ロンドンの留学生としてロンドンに滞在しており、ウォートルスも1861年から64年までロンドンで働いていた。建物も道路も、英国を念頭においていたと考えてよいのではないだろうか。

一方、在日外国人は銀座煉瓦街に全く異なる印象を持っていたようである。1872年5月、英字新聞に銀座煉瓦街の計画が報じられたが、そこには欧風や洋風の文字はなく、建物は「an open front like that now in use in Japanese houses（日本家屋で現在使われているように、表は開放的である）」と説明されている（文献

2)。大通りがほぼ完成した1874年6月の英字新聞には、「long lines of shops, into which the *nagayas*, the long external buildings, have been converted(間口の長い建物である“長屋”から転じた長い商店街)」とされている(文献3)。外国人の眼に、銀座煉瓦街は西欧風に映らず、従来の日本の町家が煉瓦造で作り変えられたものに見えたのかもしれない。当時の写真を見れば、確かにそんな感じもする(図1)。

建築史家の藤森照信氏によると、日本近代建築史研究者の間では、銀座煉瓦街のモデルには二説あるという(文献4)。一つはシンガポールに代表される東南アジア植民都市説で、もう一つはリージェント・ストリートに代表される英国説だという。そして藤森氏は、歩廊の形式から、シンガポール説を否定し、英国説に軍配を上げる。

だが、そもそもの話、熱心な欧化主義者だった井上馨とウォートルスがタッグを組んで、東南アジアの植民都市を手本にするとは思えない。銀座煉瓦街のジョージアン様式は、アジアの植民都市を伝って日本に達したのではなく、ウォートルスによって英国から直輸入されたと考えてよいだろう。

リージェント・ストリートは、英国ロンドンの中心を南北に走る大通りで、1825年に完成した。リージェンツ・パークからしばらく南に下がったところにあるオール・ソウルズ教会を起点に、オックスフォード・サーカス、クオドラント、ピカデリー・サーカスを経て南下する約1.3kmのルートである。サーカス(circus)は円形広場という意味で、英国バースのサーカス(1755年)が有名であるが、リージェント・ストリートでは大通りとの交差点に設けられている。銀座煉瓦街で、大通りの交差点(現・銀座四丁目交差点)の四隅が切られているのは、サーカスを意識したものであろう。

図3 リージェント・ストリートのクオドラント
リージェント・ストリートは英国ロンドンの中心を南北に走る大通りで、1825年に完成した。その一部であるクオドラントは、リージェント・ストリートを代表する光景として、しばしば描かれた。左上は1848年にピカデリー側の歩廊が撤去される以前のもの。右下は1872年に岩倉使節団が訪問した際に入手し、持ち帰った図を元に、日本で制作されたもの。出典:日本建築学会『西洋建築史図集 改訂新版』1964、文献5に掲載された図を元に作成

クオドラントはピカデリー・サーカスの手前の湾曲した部分で、名前は四分の一(quadrant)円弧に由来する。リージェント・ストリート最大の見せ場で、しばしば版画に描かれた。1872年に岩倉使節団もリージェント・ストリートを視察しており、現地から持ち帰った図を元にリージェント・ストリートの版画を彫らせているが、それもクオドラントの光景であった(図3)(文献5)。

そして、最近刊行されたウォートルスの伝記本では、新説が唱えられている(文献6)。銀座の建物の多くは、アイルランドの首都ダブリンの建築の影響を受けていて、街路はリージェント・ストリートを彷彿させるという。しかし、ウォートルスのダブリン経験は弱い。14歳のときに何か月間か親元を離れて働いていただけである(文献6)。ウォートルスの人生の中で、遠い日のダブリンと銀座を繋ぐのは無理がある。また、リージェント・ストリートは直線道路ではないし、立ち並ぶ建物は中層である。銀座煉瓦街との共通点は歩廊の存在ぐらいである。ダブリンもリージェント・ストリートも、銀座煉瓦街のモデルと特定するのは難しいと思う。

ダブリンにまでモデルを探しに行かずとも、ウォートルスの生まれ故郷にヒントがあるとは考えられないだろうか。ウォートルスはアイルランド、オファリー郡バーのオックスマンタウン・モールに生まれ育った。オックスマンタウン・モールは、バー城の城門と聖ブレンダン・アイルランド国教会を結ぶ幅の広い直線道路で、1840年に完成した。当時の建物が数多く現存することから、道路の位置も変わってはいないと仮定して、ネット上の地図で距離を測ると、道路の幅は緑地帯や歩道を含めて30m以上もある。さらに歩道と敷地の境界から数mセットバックして、ジョージアン様式の二階建てのテラスハウス(連続住宅)が立ち並ぶ(図4)。道路の幅と建物の高さは銀座煉瓦街に近い。だが歩廊はない。

図4 オックスマンタウン・モール
オックスマンタウン・モールはアイルランド、オファリー郡バーの、バー城の城門と聖ブレンダン・アイルランド国教会をつなぐ大通りで、1840年に完成した。ウォートルスの家族は、1857年にウォートルスの父親が亡くなるまでここに住んでいた。写真は藤森照信氏提供。

銀座煉瓦街のモデルは、特定の場所に帰するのではなく、ウォートルスのアイルランドと英国の経験が混ざり合った中にあると考えてはどうだろうか。

[参考文献]
1 服部誠一『東京新繁昌記 第二篇』1874年
2 『The Japan Weekly Mail』1872年5月18日付け
3 『The Far East』1874年6月
4 藤森照信ほか『復元文明開化の銀座煉瓦街』1994年
5 久米邦武編『米欧回覧実記 第二篇』1878年
6 メグ・ヴィーヴァーズ『An Irish Engineer』2013年

街でみかける ファインスチールの施工例 その29

1 輪島塗会館

漆黒の塗装ガルバリウム鋼板を1階の屋根に採用した、石川県輪島市にある「輪島塗会館」は、輪島の街の中心部新橋のたもとにある、たくさんの輪島塗を見ることができる施設として2015年3月に新築オープンした。

1階には漆器展示販売コーナーがあり、輪島漆器商工業協同組合に加盟する市内約60件の塗師屋（漆器店）の商品を一堂に集め、展示販売している。ふだん使いの塗箸から豪華な加飾で彩られた装飾品に至るまで、安心の品質とともに、多様な要望に応える品揃えである。

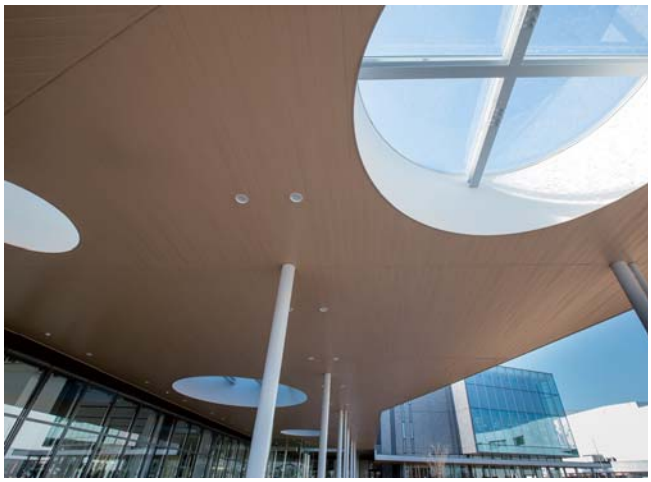
また、2階にある輪島塗資料展示室（有料）は、国の重要有形民俗文化財に指定されている貴重な作品をはじめ、塗師道具など輪島塗に関する歴史民俗資料計3804点を保有・展示する日本唯一の資料館である。輪島塗の製造工程がよくわかる説明展示と企画展示を見ることができる。国の重要有形民俗文化財の指定を受けた安土桃山時代から昭和初期までの輪島塗作品を堪能できる。

1階 漆器展示販売コーナー

2階 輪島塗資料展示室

2 埼玉県北本市新庁舎

北本市は、埼玉県の中央部に位置し、自然や歴史、文化的資産に恵まれた人口約6万8千人の市である。
新庁舎は、市役所とこども図書館や児童館の各機能が一体となった複合施設として、2015年3月に完成。約7トンの塗装ガルバリウム鋼板が軒天部分に使用されている。
庁舎は周辺住宅地に配慮した低層3階建て（一部4階）で、みどりの広場も整備し、周辺地域に対しても優しい緑の景観を作り出している。執務室はコミュニケーションの活性化を図るため「オープンオフィス」を基本とし、その両側に会議室などの個室を設置。また、組織変更に柔軟に対応出来る「ユニバーサルレイアウト」を採用している。
市民の利便性の向上のため、市役所、文化センター、中学校などの公共施設をコンパクトに集積し、『行政・文化拠点』として整備。庁舎敷地内だけではなく、既存の文化センターと新庁舎、児童館等の有機的な連携を目指し計画され、東日本大震災の経験から、『防災力』の向上に一層考慮して新たに『防災・情報・文化拠点』として位置づけられている。



ファインスチール　第六十一巻　一号
平成二十九年一月二十五日発行
一、四、七、十月二十五日発行
発行所　一般社団法人　日本鉄鋼連盟　建材薄板技術普及委員会
〒103-0025　東京都中央区日本橋茅場町3-2-10鉄鋼会館
☎03(3669)4815　FAX03(3667)0245

FINE STEEL!

全国ファインスチール流通協議会
ファインスチールイメージキャラクター
ファイン君

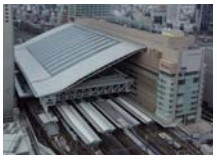
ボクらは「自在に変化」進化した鉄！

ファインスチールは、鉄の長所を最大限に活かしながら、これからの家と暮らしにふさわしい特長を合わせ持つ、現代建築の最適な素材として注目を集めています。新しい住まいで始まる暮らしをより良いものに。
ファインスチールが理想のカタチを実現します。

ボクらの特長

地震につよい　表面がきれい　環境にやさしい

屋根材・壁材にはファインスチール



FINE STEEL

全国ファインスチール流通協議会

http://www.zenkoku-fs.com

Fine Steel